SHINTARO SUZUKI'S ONE POINT

「シーガー使って今日も快釣」
鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

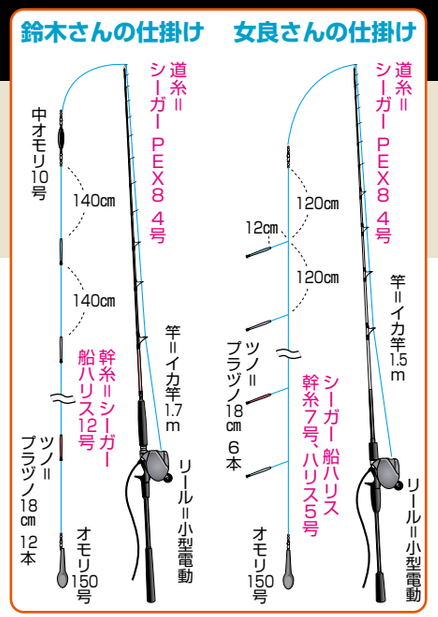
▲出船前に仕掛けの点検

★鈴木新太郎さんのスルメイカ仕掛けは図にあるとおり、ポイントはさばきやすさにある。幹糸に使用するラインは張りのあるフロロカーボン製を使用するが、汎用品「シーガー船ハリス」で十分。12号というやや太めの号数も糸がつかみやすいからだ。ツノとの接続は結んだあとの輪が移動し、作業も素早い移動結びで仕上げる。ツノ間はたぐりやすい間隔、鈴木さんの場合は1.4メートルとしている。女良さんのブランコ仕掛けは鈴木さんのアドバイスの元に作製。

▶ツノと幹糸の接続は移動結び

シーガーPE X84号400m巻き

★ヤリ、スルメイカ釣りにおすすめの道糸が「シーガーPEX8」400メートル巻き製品。当日使用したのは4号。たとえばシマノの2000番クラスなら下巻きなしで収まる。400メートル巻きは2、3、4、5号に用意。価格はオープン。



▲勝浦沖の水深170メートル前後を狙った

◀女良さんも徐々に仕掛けの扱いに慣れてきた

▲序盤は単発が多かった

▲釣りの合間にせっせと沖干し作り

▼「これが楽しみなんですよ」と鈴木さん

▶終盤、ついに4杯掛け披露

ところが後続がない。移動を繰り返すものの、二枚潮のうえ、サバが邪魔して仕掛けが下りないせいもある。

鈴木さんの1杯目は1時間後。その後はポツポツと乗ってはくるものの、いずれも単発でバラシも目立っている。「こういう日はブランコが有利なんですけど」と言いつつも、鈴木さんは仕掛けを変える気はないようで、くしくもブランコ対直結の様相となってきた。その間にも鈴木さんはせっせとイカをさばいて沖干しを作っていく。

それまでは女良さんがややリードしていたが、徐々に乗りが上向いてきた9時前に突然、鈴木さんが4杯掛けを見せ、頭一つ抜け出す。チャンスを逃さないところはさすがである。

女良さんも単発ながらしっかり追撃態勢。スルメの釣り方も様になってきた11時過ぎには、本日初めての4杯掛けを達成する。

30分後に沖揚がり。鈴木さん24杯、女良さん20杯で貫禄の勝利といったところか。船中では28～45センチを7～24杯と、このところの平均釣果。

「イカの仕掛けにもようやく慣れてきました。今度は直結にチャレンジしてみたいです」と女良さん。

「乗りが浅くてバラシが多かったけど、久しぶりのイカ釣りを堪能しました」と鈴木さん。港に着いたころには沖干しもすっかり乾き、今夜の着談議に明け暮れる2人だった。

Challenge #62
外房勝浦川津港出船のスルメイカ

★ショートタイプの竿をきしませながらのヤリトリ

★勢いよく潮を吹きながら上がってくるスルメイカ、外房勝浦沖で好調だ

釣れる釣れるは糸次第

鈴木新太郎、女良圭祐

外房のスルメ上昇気配 直結VSブランコの軍配は

◉今シーズン、関東周辺のヤリ、スルメイカの模様が今一つ。沖のイカ釣りファンには煮え切らない状況が続いている。そんな中、9月下旬あたりから外房勝浦沖でスルメイカが上昇気配。この時を待ちかねた鈴木新太郎さんが、イカ釣り初心者の女良圭佑さんを誘って勝浦川津港から出船した。

★鈴木さんの仕掛けはシーガー船ハリスで作製

▲女良さんはスルメ初挑戦だった

▲鈴木さんが船中初、中大型の4杯掛けを達成

外房在住、周辺の釣りにはめっぽう明るい女良圭佑さんだが、なんとスルメイカは初めての挑戦だという。

「しっかり勉強してきました。実践は鈴木さんに教えていただきます」

持参した仕掛けは「シーガー船ハリス」で自製したプラヅノ18センチのブランコ式6本。鈴木さんがタックルなども含めその出来栄えをチェックし、まずは及第点を与えた。鈴木さんは同じく18センチプラヅノ、直結12本というベテランらしい仕掛けである。

乗船したのは外房勝浦川津港の不動丸。5時半に出船し、30分ほど走って水深170メートル前後の釣り場に到着した。このところの状況はトップで20～30杯、船長の話ではいかにチャンスタイムをものにできるかがカギになるという。

20分ほどして静かにリールを巻き始めたのは女良さん。記念すべき自身の初スルメは全長30センチを超える良型、船中でも第1号だった。

◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合繊(株)☎03・3249・4654

◉取材協力／外房勝浦川津港 不動丸 ☎0470・73・5538(詳細は巻末の情報欄参照)